

## 「あおもり創造学」による魅力発信・地域課題解決プログラム 成果発表会発表要旨報告書

|     |              |
|-----|--------------|
| 学校名 | 青森県立青森商業高等学校 |
|-----|--------------|

### ◆発表テーマ

※本テーマは各校の「あおもり創造学」のテーマとし、**発表内容に応じて必ずサブテーマを付けてください。**

青商和菓子プロジェクト  
～青森の魅力を和菓子で発信part2～

### ◆発表要旨（100～200字程度） ※具体的に文章で発表内容をまとめてください。

アンケート調査を行い和菓子の現状を知ってより良い和菓子を開発しようと考えました。アンケート調査を行った結果、若者による和菓子離れが進行していることが分かり、3つの仮説をたてました。和菓子作り体験をし、それをもとに実際に商品を開発し、販売しました。そのことを通して、和菓子の魅力を発見することができました。

### ◆発表内容

始めに、昨年度の先輩方は、びいどろ羹を開発しましたが、時間設定がうまくできず商品販売することができませんでした。私たちは昨年度の先輩方の反省を生かしアンケート調査を実施することで和菓子の現状を知って、よりよい和菓子を開発しようと考えました。

校内アンケートの結果をSWOT分析で整理してみ、SWOT分析からわかった弱みを解決しつつ、強みを生かした商品を考えるために、アイデアベースを作成することにしました。アイデアベースから4つの特徴があることがわかりました。

1. 和菓子の魅力を多くの人に知ってもらいたい、2. 和菓子の若者離れを減少させたい、3. 和菓子の苦手な人でも食べられる和菓子を作りたいという3つの仮説を設定しました。これらの仮説を達成するために6個の商品企画を考えました。1つ目はびいどろ羹です。これは先輩方考えた商品です。私たちは、りんごの三色団子、栗きんとんどら焼き、金魚ねぶたの練り切り、りんごの花の練り切り、青池水まんじゅうの5つの新商品を考えました。びいどろ羹は三沢市の七夕祭りで試食していただける機会があり、そこでアンケートを取ることができ、好意的な意見が多く得られました。

私たちは和菓子について知識を深めるために和菓子作り体験をしました。松栄堂の畑中社長に1回目のプレゼンを行い、試食をさせていただきました。そこで、それぞれの商品の利点と欠点を見つけ、販売する商品を決定しました。販売した結果、2日間合わせて2万1300円の売り上げを得ることができました。購入してくださった方にアンケートを配布しました。びいどろ羹は価格設定が適切で、びいどろの魅力を表現できたと思います。課題としては、レパートリーを増やせばよかったと思います。栗きんとんどら焼きは、味、食感ともにちょうどよく、価格も適切でした。課題は、早く売り切れてしまったことです。りんごの花の練りきりは、見た目がきれいという意見が多かったです。課題としては、価格設定が高すぎたことです。

これらの活動を通して、和菓子の魅力を多くの人に知ってもらいたいという仮説では、和菓子

の魅力を伝えることができたと思いましたが、SNSを使って和菓子を発信することが必要だと思いました。和菓子の若者離れを減少させたいという仮説では、パッケージを可愛くしたり、商品の見た目を可愛くすることが大切だと思いました。やはり、SNSなどに載せてくれるような可愛い売り場にすることが課題として挙げられます。和菓子の苦手な人でも食べられる和菓子を作りたいという仮説では、和菓子が苦手な人の気持ちを考えながら洋菓子に近い和菓子を考えたり、実際に食べてみて手に取りたいと思える商品を作れました。課題としては、もっとコストを抑え大量生産しやすい商品にすることで和菓子が苦手な人でも食べられるような環境を作ることが必要だと思いました。

最後に反省とまとめです。松栄堂さんに協力してもらい、実際に青商祭で自分たちが考えた商品を販売してみて原材料費や製作するうえで、難しいことなどを考慮して自分たちが仮説として立てている目標を達成できる商品を作るとは時間がかかり、考えていかなければならない点が多いけれど和菓子の魅力を伝えられたと思いました。

## 「あおもり創造学」による魅力発信・地域課題解決プログラム 成果発表会発表要旨報告書

|     |                |
|-----|----------------|
| 学校名 | 青森県立五所川原農林高等学校 |
|-----|----------------|

### ◆発表テーマ

※本テーマは各校の「あおもり創造学」のテーマとし、**発表内容に応じて必ずサブテーマを付けてください。**

ウルシから学んだもの

### ◆発表要旨（100～200字程度） ※具体的に文章で発表内容をまとめてください。

令和3年から青森県中南地域県民局の「TUGARUうるし」造成事業に参加したことをきっかけに、ウルシに関して取り組んできました。ウルシは果樹園跡地に植栽していますので、ウルシ生産だけでなく、中山間地域の農業振興や農村景観の維持にもつながっていると考えています。この活動を通してたくさんのつながりができ、就労支援施設の「きりんの里」や山仕事全般を手掛けている「ミミずく」と一緒に活動している。これからは、ウルシ栽培の全工程を実施するとともに、森林整備や林福連携について継続して取り組むことにより、地域の林業に貢献していきたいと思います。

### ◆発表内容

#### 1 はじめに

これまでに先輩方はたくさんの植栽事業に参加して、青森県の林業を盛り上げてきました。令和3年からは、青森県中南地域県民局の「TUGARUうるし」造成事業に参加し、ウルシの植栽を通して森林整備について学びました。これまでに6回の植栽を実施し、延べ168名もの森林科学科の生徒が参加しています。今年度の5月には、昨年度と同様に弘前市乳井地区の果樹園跡地で、森林科学科の3年生と2年生の26名が、150本のウルシを植栽してきました。

#### 2 取組・研究方法

当初は、ウルシの植栽が目的でしたが、ウルシについて活動しているうちに、小西美術工芸社のウルシ掻き現場見学、ウルシ材での木工品制作や大野木工さんからのご指導、就労継続支援型事業所との関わりから林福連携に発展し、これらの活動の中から新しい課題や活動に取り組んできました。

#### 3 結果

ウルシの生産量は目標より少なく、今後も植栽が望まれます。ウルシは、木材生産より短期間でウルシを掻いて収入を得ることができます。休耕地を利用することで、山村の景観維持と山地保全に役立ちます。ウルシを掻き終えた木材で加工品を製作することにより、森林資源の有効活用ができます。林福連携により、雇用の創出や林業の担い手不足の解消にもつながることが分かりました。

#### 4 考察・結論

私たちは、12月に2度、農福連携に取り組んでいる弘前市の福眞さんと鳴海さんの講演を聴くことができました。福眞さんは労働力重視、鳴海さんは経営改善と目的は大きく違いますが、支援施設の利用者さん方を受け入れてリンゴ生産をしていました。福眞さんは、やがて、岩木山とりんご園と水田がマッチした素晴らしい景観が、このままは見られなくなることを危惧し、3年前に休耕地を購入して現在では6 haを所有するリンゴ生産者になった方です。

これからも、この活動を継続して林業について学んでいきたいと思います。

## 「あおもり創造学」による魅力発信・地域課題解決プログラム 成果発表会発表要旨報告書

|     |            |
|-----|------------|
| 学校名 | 青森県立木造高等学校 |
|-----|------------|

### ◆発表テーマ

※本テーマは各校の「あおもり創造学」のテーマとし、**発表内容に応じて必ずサブテーマを付けてください。**

馬市革命 ～馬市まつりを更に盛り上げるためには～

### ◆発表要旨（100～200字程度） ※具体的に文章で発表内容をまとめてください。

地域の祭りが減少して行く中、更にコロナ禍によって盛り上がりが減った馬市まつりを今まで以上に盛り上げるために地元の高校生として何かできないだろうかと思い、様々な企画を考えました。また、企画したものでどのような影響が及ぶか、実践する事で地域の活性化に繋げる事を目的とし、過去と現在の祭りの様子を比較し、市役所や祭りの参加経験者にインタビューを行いながら探究活動を進めました。

### ◆発表内容

私たちは約1年間馬市革命と題して、馬市まつりの観光客数を増やすことで馬市まつりの活性化に貢献すべく、探究を行いました。私たちのリサーチクエスションは、地域の祭りが減少する中で、コロナ禍によって盛り上がりが減った馬市まつりを更に盛り上げるために、私ができることは何か、です。地域の活性化のために私達ができることを考えた結果、木高生が参加している馬市まつりを中心に探究を進めて行く事になりました。また、今まで馬市まつりに興味を持たなかった人、特に私達のような中高生などの若者が、馬市まつりの新しい定番を作る事によって少しでも興味を持ってくれるのではないかと考えました。



この探究の目的は自分たちが考えて企画したもので、馬市まつりやつがる市に及ぼす影響を調査することができ、その実践によって地域の活性化に尽力することです。

そこで私達は過去の馬市まつりについて調べるため、先生方に聞き取り調査を実施しました。昔は木造高校として参加する際に、流し踊りと馬ねぶたの作成・配布の2つに役割分担して生徒が行っていたそうです。また、文化祭の延長でクラスパフォーマンスの衣装で仮装大会や、歩行者天国、地区ごとの馬ねぶたの出陣などを行い、観光客数や出演数は多かったと教えてくださいました。

現在の木造高校での出演内容としては、地区ごとではなく、近隣の学校や団体に出演を依頼しており、観光客数や出演者数は年々減少傾向にあります。

過去と現在で馬市まつりの形式や木造高校の出演内容に変化が現れた要因としてはコロナウイルスによる祭りの制限、少子高齢化、それに伴う担い手の減少が挙げられます。

※使用フォントはMS明朝12ポイントとし、項目立てや図、グラフの挿入等は自由とする。  
A4判用紙2枚までとする。

そこで、馬市まつりで自分たちがやりたいことが2つあります。

提案の1つ目は『馬ねぶたを配布する』ことです。馬ねぶたとは、金魚ねぶたの馬市バージョンです。大きさは、手のひらサイズのものになっています。馬ねぶたを配布しようと思ったきっかけは、私たちの中で『青森ねぶたの手土産』と言ったら『金魚ねぶた』というイメージを強く持っていたので、馬市まつりでもそのような手土産を作れば、『より多くの人を集客できるのではないか』と思いました。



提案の2つ目は『廃棄予定のつがる市特産品を使用してオリジナルのあんず飴を作り、来客者に試食してもらう』ことです。これは、『SDGsに貢献できる』、『つがる市ならではのものができる』など利点がたくさんあります。



現時点で『つがる市の特産物で何を使うか』『あんず飴という名前の変更』の2つを検討しています。あんず飴はあまり知名度が高い食べ物ではないので、あんず飴について紹介します。あんず飴とは、東京近郊の緑日でよく見かける屋台の食べ物であり、果実のあんずとはあまり関係がない食べ物です。一般的には、果実に割り箸を刺し、水飴をからめて氷の上で冷やしている食べ物です。あんず飴には、つがる市の特産品であるメロン、スイカそして、トマトなどを使おうと検討しています。このように馬市まつりの過去やその上で私達がやりたいと思った活動がまとまった後、馬市まつりの開催に大きく関わっている市役所の方々に質問や意見を聞いてきました。

まず、そもそも馬市まつりを開催する意義は、地域の内と外という観点で見た各地域の盛り上がり、地域外からの観光客数の両方に着目しているようです。

また、過去は農耕馬が競に出されていたが機械化によって馬が農耕に使われなくなったことから、馬の霊を崇めるために祭りを例年行なっているという馬市まつりの歴史の継承も開催する意義のうちの一つです。そんな中、観光客が減少しつつある今、観光客を増やすためには宿泊施設や体験場所が少ないのもっと増やすべきだと思っていると話されていました。

しかし、観光客が減少しつつある馬市まつりが長く継承されている理由は伝統の継承以外にあります。地域の人と観光客の一体感や観光客からの楽しかったなどの声、全体の盛り上がりといった長所がたくさんあるからです。逆に馬市まつりを開催するにあたっての短所は使用する資材の価格高騰、観光客数の減少、担い手不足などの点です。

そして、私達が先ほど紹介した商品開発をする事については、観光客に配布しお金をいただく場合は、食品衛生管理者に申請をするなど様々な作業をしなければならないと話され、廃棄予定の野菜や果物にお金を払える価値のあるものと言っていました。

また、これらの商品によってさらに馬市まつりに興味を持ってもらえるし、より幅広い世代の方や県外の観光客にも楽しんでもらえる祭りになると思うとおっしゃってくださいました。

この探究活動を通して、色々な方から馬市まつりの歴史や現状、課題を教えてくださいました。自分たちで馬市まつりについて考えたことができ、理解や興味をより深めることが出来ました。また、私たちが考えたことを行う際の手順や助言もしていただきました。

今後は、市役所の方から聞いた意見を活動に役立て、あまり知られていない馬市まつりの起源や歴史などを広めるという視点からも何か活動が出来たらいいなと考えています。

## 「あおもり創造学」による魅力発信・地域課題解決プログラム 成果発表会発表要旨報告書

|     |             |
|-----|-------------|
| 学校名 | 尾上総合高等学校定時制 |
|-----|-------------|

### ◆発表テーマ

※本テーマは各校の「あおもり創造学」のテーマとし、**発表内容に応じて必ずサブテーマを付けてください。**

「あおもり創造学」地域の課題解決・魅力発信  
～物語に出てくるリンゴの魅力を発信する～

### ◆発表要旨（100～200字程度） ※具体的に文章で発表内容をまとめてください。

青森の名産品であるリンゴは、食用としては多く紹介されているが、物語に出てくるリンゴはあまり珍しくはないと思った。魅力発信のため、物語のリンゴの魅力をインターネットや図書館書籍を通じ、解決案に取り組む。

### ◆発表内容

#### 1 研究のきっかけ

リンゴは、食用として紹介されていることが多いため、物語に注目して魅力を伝えることもできるのではないかと考えたから。

#### 2 課題と仮説

課題 リンゴの魅力をさらに発信するために、何か新しい視点から PR することはできないか。

仮説 物語に出てくるリンゴの魅力を知ってもらうことで、そこからリンゴの魅力を知ってもらうきっかけになるのではないか。

#### 3 研究方法

物語に出てくるリンゴということで、インターネットや図書館書籍を利用してみたところ、有名な作品は童話や神話が多かった。そこで、意外と知られていないリンゴの豆知識を三選盛り込みながらも、リンゴが出てくる物語も自作してみた。

#### 4 研究内容と分析

りんご公園を訪問し、実すぐりを体験し、リンゴを育てる過程を学んだ。また、シードル工場を見学し、リンゴの魅力を掘り起こす努力をしている人たちの存在を知った。

弘前市立図書館職員である三上さんにもご協力をいただき、物語に出てくるリンゴの魅力発信に取り組んだ。物語に出てくるリンゴの魅力を三選紹介し、自作絵本紹介という流れになっている。

## 5 研究結果

三上さんやヒントやアドバイスをくださった先生方、地域の方々のおかげで「物語に出てくるリンゴ」という新しい視点から魅力をまとめることができた。

## 6 参考文献

- ・日本民話やグリムおよびアンデルセン童話に登場する果実 や野菜をはじめとする食物について <https://agriknowledge.affrc.go.jp/RN/2010773109.pdf>
- ・リンゴの花言葉 | 花・実・木それぞれに花言葉があるって知ってました？ <https://kosodate.mynavi.jp/articles/17074>
- ・【旧約聖書】禁断の果実、リンゴじゃないかも？【研究結果】 <https://tabilabo.com/300002/wt-mystery-of-forbidden-fruit>
- ・クリスマスツリーの最古の飾りはりんごだった？ クリスマスとりんごの深い関係 <https://weathernews.jp/s/topics/202212/130245/>
- ・マーシャ・ライス. リンゴの文化誌. 原書房, 2022.
- ・梅谷献二 梶浦一郎. 果物はどうして創られたか. 筑摩書房, 1994.

## 7 まとめ・感想

- ・調べてみることで自分が知らないリンゴの知識を学ぶことができてよかった。
- ・テーマについて、もっといい考えがあったのではないかと悩むこともあったが、先生方や地域の方々の協力のおかげで形として残すことができてよかった。
- ・違う視点からのリンゴの魅力を発見することができたのができ、それをつたないスライドではあったものの発信することができたのは大きな学びとなった。



## 「あおもり創造学」による魅力発信・地域課題解決プログラム 成果発表会発表要旨報告書

|     |              |
|-----|--------------|
| 学校名 | 青森県立弘前工業高等学校 |
|-----|--------------|

### ◆発表テーマ

※本テーマは各校の「あおもり創造学」のテーマとし、**発表内容に応じて必ずサブテーマを付けてください。**

～地域に愛される工業人を目指して～

「国スポ・障スポカウントダウンボードの製作と

城北公園交通広場 踏切システムの修理について」

### ◆発表要旨（100～200字程度） ※具体的に文章で発表内容をまとめてください。

私たちは、地域に愛される工業人を目指し、あおもり創造学の一環として地域課題の解決を目指し、課題研究に取り組みました。今年度取り組んだテーマの中から「国スポ・障スポカウントダウンボードの製作について」と「城北公園 交通広場 踏切システムの修理について」製作や修理の過程及びこの活動を通して学んだこと、感じたことについて発表します。

### ◆発表内容

#### 国スポ・障スポカウントダウンボードの製作

2026年10月10日～20日の11日間の日程で国民スポーツ大会が、同年10月23日～26日の4日間の日程で障害者スポーツ大会が、本県で開催されます。弘前市では、開催日までの日数を表示するカウントダウンボードを製作し、大会の開催をPRすることになりました。地域の高校生が製作することで、大会を身近に感じていただき、大会がより一層盛り上がるのではないかと、本校に製作の依頼が舞い込みました。ここでは、電子科が担当したカウントダウン表示部分の製作についてお話しします。

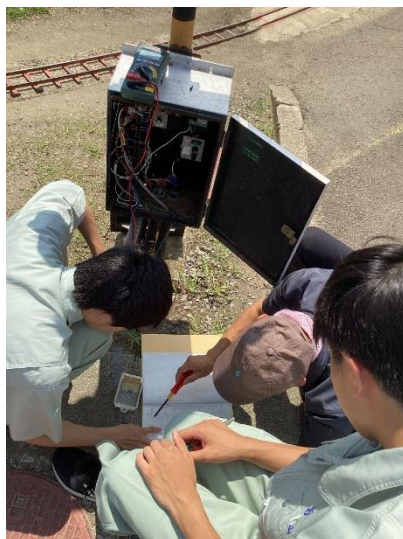


カウントダウンボード除幕式の様子

## 城北公園 交通広場 踏切システムの修理

城北公園交通広場は、踏切、横断歩道、信号機などの交通施設があり、幼児や小学生が保護者と一緒にゴーカートやミニ列車などで楽しみながら交通ルールやマナーを学ぶことができる施設です。

5月下旬、公園を管理する弘前市の地域交通課から「交通広場の踏切が故障して困っている。業者に見てもらったが、基板の修理はできない。と断られた。電子科で診てもらえないか。」というお話があり、課題研究の一環として修理に取り組むことにしました。



現地での修理の様子

踏切は、2カ所あり、踏切りを制御するためのセンサー類が踏切ごとに4カ所ずつありました。調査時点で両方とも全く動作しない状態でした。この踏切システムは40年以上前のもので、弘南鉄道の保線をされていた方が退職後、ほとんど手作りで製作したものである伺いました。製作当時の技術資料を拝見したところ、とても高い技術を持った方が設計・製作したものであると感じました。現地での調査結果から推測して、電子基板に異常があることは間違いないと判断しました。また、回路図や制御の流れ図、プログラムなど全てそろっているのも、これを解析すれば、修理できると思いました。電子基板と制御盤を取り外し、学校へ持ち帰り修理することにしました。この発表では、基板の修理や故障原因の特定及び修理、システムの復旧に至るまでについてお話をします。

これまでの活動を通して、私たちの住む地域にも様々な課題があり、高校生でも地域に貢献できる事がある。ということに気づきました。

国スポ・障スポカウントダウンボードの製作では、3学科協働で、ものづくりを成し遂げたことで、それぞれの力を合わせれば、より大きな課題を解決できる。ということに気づきました。

交通広場の踏切修理では、完成後小学生達がミニ列車に乗り歓声をあげている姿を見て、修理して良かったと、地域貢献の喜びを感じました。

## 「あおもり創造学」による魅力発信・地域課題解決プログラム 成果発表会発表要旨報告書

|     |            |
|-----|------------|
| 学校名 | 青森県立七戸高等学校 |
|-----|------------|

### ◆発表テーマ

※本テーマは各校の「あおもり創造学」のテーマとし、**発表内容に応じて必ずサブテーマを付けてください。**

柏葉から考える青森と私の未来 ～七戸城跡の魅力UPを図る～

### ◆発表要旨（100～200字程度） ※具体的に文章で発表内容をまとめてください。

私は七戸町を活性化させたいという思いがあり、七戸高校近くにある七戸城跡の魅力UPを図ることで、七戸城跡や七戸町への来場者が増え、活性化に繋がるのではないかと考えた。そこで、青森県内のお城や県外のお城に関する取り組み、現状等についての調査をするともに、校内でもお城の興味・関心調査（アンケート）を実施し、七戸城跡の魅力を高める方法を模索した。

また、私は将来、学芸員等、歴史にかかわる仕事がしたいと考えていることから、歴史的建造物の保存や活用方法の知識を身に付けたいと考え、今回のテーマを設定した。

### ◆発表内容

#### 1. 七戸町の紹介

七戸町は、県都青森市と八戸市のほぼ中間に位置し交通アクセスが抜群で仕事も遊びも快適な町である。また肥沃な大地のためニンニクやトマトの栽培が盛んである。

#### 2. 七戸城の紹介

七戸城は14世紀頃（南北朝時代？）に築城されたと伝えられており南部氏の北方や西方の敵勢力からの防衛拠点として重きをなした。しかし1591年当時の当主七戸家国が反乱に加わった罪として処刑されその際七戸城も廃城となった。その後の江戸時代には代官所が設置された。



道の駅しちのへ



復元された東門



南部師行公の像

#### 3. 課題

- ・七戸城跡の魅力はあるのにうまく活用されていない。
- ・城跡の周りの汚れ。（復元模型のケース、生い茂る草、ポイ捨てされたごみ、さびれた看板 等）
- ・七戸城跡の歴史背景が地域住民に周知されていない。



#### 4. テーマ設定の理由

- ①七戸高校の近くに城跡があるから。
- ②七戸町を活性化させたいから。
- ③歴史的建造物の保存や活用方法に興味・関心があったから。

#### 5. 仮説

七戸城（城跡）の魅力、周知を図れば、郷土愛が深まる。

#### 6. 仮説設定後に取り組んだこと【調査】

- 調査1 七戸城跡の魅力は何か（景色や水堀）
- 調査2 県内のお城について（弘前城、根城、三戸城）
- 調査3 県外のお城について ※七戸町と人口同規模の自治体を調査  
（岩櫃城（いわびつ）（群馬県東吾妻町）、津和野城（つわの）（島根県津和野町）、  
杉山城（すぎやま）（埼玉県嵐山町）
- 調査4 全国的に知名度があるお城について（彦根城（滋賀県彦根市）、五稜郭（北海道函館市））
- 調査5 七戸町教育委員会の世界遺産対策室へ聞き取り  
（1）東門の復元とその他の場所の復元について （2）七戸城跡の整備  
（3）七戸城跡の清掃 （4）城に関する取り組み （5）御城印の売り上げ  
（6）七戸の歴史を感じられる場所
- 調査6 アンケート調査（七戸高校全生徒対象239名回答（288名在籍））



御城印

#### 7. 仮説設定後に検証したこと【検証方法】

- 検証方法1 パンフレット（小・中学生向けにわかりやすいパンフレット案を作成）
- 検証方法2 地域でかかわる清掃（小・中・高校や地域住民で七戸城跡を清掃）
- 検証方法3 七戸城跡を活用したイベント（史跡整備体験、「城の日」にイベントを開催）
- 検証方法4 来場者数のカウント（七戸城跡に受付所の設置、博物館の設置）
- 検証方法5 復元の提案（復元費用の捻出）

#### 8. 仮説に対する結論

七戸城の魅力UP、周知を図れば、郷土愛が深まる可能性が大いにある。

##### （1）七戸城の歴史教育を行う。

- ・分かりやすい内容のパンフレットを作成し、七戸町の小中学生への配付を提案することで、七戸城跡に興味・関心を持ってくれる人が増加する。

##### （2）環境整備に力を入れる。

- ・七戸城跡の清掃や復元等を進めることで、地域住民が七戸城跡に興味・関心をもつ。

##### （3）魅力UP、周知を図れば、七戸城跡の来場者数は増加する。

- ・青森県内や県外、知名度があるお城の状況やイベント等を調べたところ、各お城の魅力が伝わっただけではなく、実際に来場者数が多いことが分かった。そこで、七戸城跡でも実際にイベントの企画等の工夫をすれば七戸城跡の魅力を多くの人に伝えられ、来場者数の増加に繋がる。

## 「あおもり創造学」による魅力発信・地域課題解決プログラム 成果発表会発表要旨報告書

|     |                 |
|-----|-----------------|
| 学校名 | 青森県立三沢高等学校（全日制） |
|-----|-----------------|

### ◆発表テーマ

※本テーマは各校の「あおもり創造学」のテーマとし、**発表内容に応じて必ずサブテーマを付けてください。**

医療従事者の就職率 ～地域医療の未来のために～

### ◆発表要旨（100～200字程度） ※具体的に文章で発表内容をまとめてください。

将来の夢を実現させるため医療従事者（特に看護師と助産師）の就職率と労働環境について調査した。医療現場の抱える人手不足の問題には「超高齢化社会」が原因であることが分かった。その対策として、AIの活用が有効であると考え、AI導入や医療従事者の就職率の増加について考察した。

### ◆発表内容

1 発表者 青森県立三沢高等学校 2 学年 小鹿真佳 三浦那月

2 序論

（1）テーマ設定理由

- ・自分たちの将来の夢である職業の現状を知りたかったから。

（2）仮説

- ・少子高齢化により看護師、助産師の人数も減少している。

3 調査内容

- ・青森県と全国の看護師、助産師の人数を調べ、比較した表を作る。
- ・出生率の青森県と全国の推移を調べ、グラフで比較する。
- ・インターネットで検索する。

4 方法

- ・青森県と全国の看護師、助産師の人数を調べ、比較した表を作る。
- ・出生率の青森県と全国の推移を調べ、グラフで比較する。
- ・インターネットから、影響などを調べる。
- ・自分たちの考えた対策とその実用性を調べる。

5 考察

- ・看護師、助産師の就職率はいずれ需要を上回る。
- ・AIとの共存で、医療業界の問題は改善されていく。

6 結論

- ・超高齢化社会は今後の医療にますます大きな影響を与える。
- ・AIの導入で仕事が減ると、医療従事者に心と体に余裕が生まれるため、患者の安全も確保できる。
- ・技術の進歩により、より多くの病気が見つけやすくなる。
- ・地域による差が出やすいため、工夫が必要である。

## 「あおもり創造学」による魅力発信・地域課題解決プログラム

### 成果発表会発表要旨報告書

|     |             |
|-----|-------------|
| 学校名 | 青森県立田名部高等学校 |
|-----|-------------|

#### ◆発表テーマ

※本テーマは各校の「あおもり創造学」のテーマとし、発表内容に応じて必ずサブテーマを付けてください。

「あおもり創造学」学校によりよい空間をつくろう  
～ より勉強に集中できる最強の環境とは ～

#### ◆発表要旨（100～200字程度） ※具体的に文章で発表内容をまとめてください。

私たちは生徒に対して学校の環境についてのアンケートを行い、そこに寄せられた学習スペースについての意見をもとに、今回のテーマとなる「より勉強に集中できる環境づくり」をするために検証を行ってきた。

今回は検証の結果をもとに課題研究について発表し、その上で発表会に参加している方々にも、よりリラックスできる環境についてのアイデアをいただきたい。

#### ◆発表内容

学校により良い空間を作ろう  
～より勉強に集中できる最強の環境とは～

##### 【1, 課題設定の経緯】

- ・本校の勉強スペースについて
- ・生徒への調査 勉強スペースとして利用できる場所が少ないという意見が多かった。（特に一年生）

##### 【2, 事前調査】

- ・先生方と生徒へのアンケート  
自由に使える教室が少なかったり、教室の中にも不便に感じられる点があるとわかった。  
勉強スペースを求める生徒が多かった。

##### 【3, 検証①】

- ・1回目の実施内容  
① 図書室（個別の机があり静かに学習に取り組める）②多目的室（ホワイトボードに向かって机を複数設置）③多目的室（複数人が向かい合って勉強できる机を複数設置）  
④多目的室（ホワイトボードに向かって机を設置）

多目的室と図書室を使用し、2日間で実施。チームを2つに分け、それぞれの場所で45分間勉強→10分間休憩→5分間でアンケートに答えるという活動を1セットとし、場所を変えて計4セット行った。

- ・様々なタイプのスペースを作ることにより、生徒それぞれの気分やニーズに合わせた勉

勉強スペースを提供することが可能である。課題点としては、仕切りの有無、風通し、机のがたつきなどすぐ改善できそうなものが多かった。廊下を通る人の視線が気になるという意見があったので、次の検証に生かすことにした。

#### 【4, 検証②】

- ・ 2回目の実施内容 部屋の外からの視線が気にならないように目隠しの設置を検討した。
- ・ 模造紙で窓を全部覆ってしまうと中の様子が全く見えなくなり安全を確認できないという指摘が教員からあった。扉に設置されているカーテンを使えば簡単に視線を遮れるため、カーテンを使用することにした。

#### 【5, 検証③】

- ・ 3回目の実施内容 扉をカーテンで目隠しした。  
① 図書室（個別の机があり静かに学習に取り組める）②多目的室（ホワイトボードに向かって机を複数設置）③多目的室（複数人が向かい合って勉強できる机を複数設置＋仕切りを準備した）④多目的室（ホワイトボードに向かって机を設置）

多目的室と図書室の2カ所を使用し、4日間で実施。それぞれの場所で30分間勉強→5分間でアンケートに答えるという活動を1セットとし、場所を変えて計4セット行った。

- ・ 隣の人との仕切りがあったのがよかった、視線が気にならなくなった、グループで勉強ができる環境は貴重である、といった意見が増えて、勉強に集中できる環境を作ることができたという評価を得た。一方で、隣の人との距離感や気まずさを感じるという意見もあった。このことから机と机の間の仕切りを置くことが効果的ではないかという仮説が新たに立った。

#### 【6, これからの展望】

- ・ 現在多目的室は勉強スペースとして常に開放されている場所ではないため、仕切りを取り入れるなどの改善を施し、勉強スペースとして日常的に使用できるよう学校に提案していきたい。

## 「あおり創造学」による魅力発信・地域課題解決プログラム 成果発表会発表要旨報告書

|     |          |
|-----|----------|
| 学校名 | 八戸工業高等学校 |
|-----|----------|

### ◆発表テーマ

「あおり創造学」地元ファンづくりプロジェクト  
～産業都市・八戸のPR活動～

### ◆発表要旨

本校が所在する青森県八戸市は、北東北最大級の工業都市である。しかし、令和5年度八戸市若者意識調査アンケート「八戸市の誇りとは」において「産業都市」と回答した人はわずか3.3%と、項目中最下位であった。地域が産業都市であることを認識していないことが、人口流出の原因の一つになっていると考え、地域に「産業都市・八戸」をPRすることにした。

### ◆発表内容

産業都市・八戸のPR活動 ～最頂崎(ほつみさき)に生まれた恵み～

八戸市は寒冷地でありながら、降雪量が少なく、企業活動を支える安定した天候と自然環境がある。また、北海道や諸外国へアクセスしやすい立地条件から、さまざまな交通機関の交通結節点になっている。そのことから、北東北最大級の工業都市を形成している。本校はその八戸市に所在し、22000名を超える卒業生がこの地域産業を支える人材として活躍している。

学校創立の目的や校風を示すものに「校歌」がある。本校校歌には 青森県が本州最北端にあることを「ほつみさき」と表現し 恵まれた立地であること、そして地域産業を支える学校であることが記されている。本校は創立から80年が経つが、先人たちは 本県や地域の長所を認識し、学校を創立したことが読み取れる。

これは 持論ではなく 青森県が 同様の論理で、外資系の半導体企業の誘致を始めていることでも証明される。

しかし、令和5年度八戸市若者意識調査アンケート「八戸市の誇りとは」において「産業都市」と回答した人はわずか3.3%と、項目中最下位であった。

本校は産業都市・八戸を支えることを目的として創立された学校であることから、地域に「産業都市・八戸」を大いにPRしたいと考えた。

二、<sup>くも</sup>曇れ。<sup>につば</sup>日本。<sup>くも</sup>るとも  
<sup>しば</sup>姑し <sup>あまぐも</sup>天雲 <sup>は</sup>霧れむ間ぞ。  
<sup>ま</sup>真 <sup>ひるぞら</sup>晝空片かげりして、  
<sup>ま</sup>馬 <sup>べつがわ</sup>淵川そよぎ <sup>す</sup>澄み行く。  
<sup>ひ</sup>地方といへども <sup>ほ</sup>最頂崎  
<sup>あ</sup>青森縣の <sup>よ</sup>よき都市に  
<sup>う</sup>生まれ來し <sup>こ</sup>恵みの <sup>め</sup>深さ。  
<sup>この</sup>ほこり <sup>み</sup>身もて <sup>こ</sup>たへむ

八戸市について、誇りに思えることは何ですか。(〇は3つまで可)

| 等八戸のお祭りや伝統文化 | 合掌土偶等の国宝 | 観光資源 | 無錫、種市、陸奥食等 | 館等の中心市街地、美術 | スポーツ | フリースタイル | 産業都市 | 等の食べ物や飲食店、サバ | 人の魅力 | まちの大きさ | その他 |
|--------------|----------|------|------------|-------------|------|---------|------|--------------|------|--------|-----|
| 78.9         | 19.0     | 48.0 | 10.8       | 10.9        | 3.3  | 45.1    | 11.9 | 3.8          | 3.1  |        |     |

えんぶり等の郷土芸能 78.9%

「産業都市」と答えたのは **3.3%**...



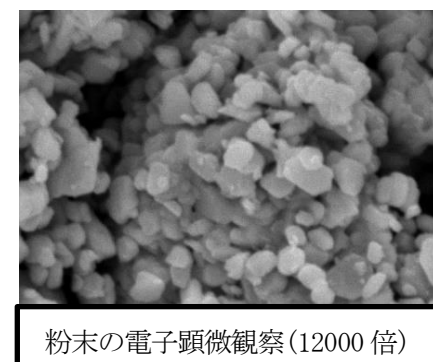
- 1 八戸七夕まつりによる「産業都市・八戸」のPR活動
  - (1) 生徒による七夕飾り制作
  - (2) 「産業都市・八戸」の文字と「電飾付き七夕飾り」で産業都市をPRした。



- 2 「産業都市・八戸」のPR動画作成
  - (1) 科学の祭典八戸大会におけるPR活動  
(会場での動画公開、オリジナルマグネット製作体験)  
日時 令和6年8月10～11日  
会場 八戸ポータルミュージアム はっち  
対象 小中学生延べ4000名  
「産業都市・八戸」のPR動画を作成し  
小中学生対象の科学展にて披露した。



- 3 地域産業の探究活動・課題研究
  - (1) 金属粉末を用いた磁石製作を通じ、地元企業（エプソンアトミックスさん）の事業内容と技術力を探究する。
  - (2) 強い磁石をつくるための工夫点を探る。  
【仮説】粒子レベルで原子磁石の極性を一方向に揃えておくことで磁力を増加できる。
  - (3) 研究結果  
【仮説】→ 正しい○  
①磁化後の焼結体を再粉碎して製作した試料（磁石）は磁力が増加した。これは粉末粒子内の原子磁石の極性方向が揃っている割合が多いと考えられる。  
②金属粉末の性能が焼結体の性能を左右することがわかった。微細で粒度が揃っている金属粉末を製造している地元企業のレベルの高さと社会的貢献度がよくわかった。  
③研究結果を高校生向けに発表することで、地域企業の魅力と技術力を発信する。



- ・令和7年1月22日（水）校内課題研究発表会
- ・令和7年2月5日（水）あおり創造学事業報告会
- ・令和7年2月22日（土）  
学生&高校生まちづくりコンペティション



## 「あおもり創造学」による魅力発信・地域課題解決プログラム 成果発表会発表要旨報告書

|     |             |
|-----|-------------|
| 学校名 | 青森県立八戸西高等学校 |
|-----|-------------|

### ◆発表テーマ

※本テーマは各校の「あおもり創造学」のテーマとし、**発表内容に応じて必ずサブテーマを付けてください。**

|   |                                                    |
|---|----------------------------------------------------|
| 1 | 「あおもり創造学」～八西から始まる地域課題解決ソリューション<br>八戸市の道路の不思議～      |
| 2 | 「あおもり創造学」～八西から始まる地域課題解決ソリューション<br>八戸駅周辺を活性化させよう！！～ |
| 3 | 「あおもり創造学」～八西から始まる地域課題解決ソリューション<br>八戸線の利用者数を増やそう！～  |

### ◆発表要旨（100～200字程度） ※具体的に文章で発表内容をまとめてください。

|   |                                                                                                  |
|---|--------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1 | 除雪車が頻繁に稼働していることや、大きい道でも頻繁に渋滞している理由を調べ、公共交通機関の利用を検討する。                                            |
| 2 | スマートスポーツシティの政策を軸に、八戸駅周辺の土地を有効活用してホテルを建設したり、スポーツジムやスポーツ店を出店したり、スポーツイベントを開催したりすることで、八戸駅の活性化につなげたい。 |
| 3 | サイクルトレインを導入し、ショッピングや通勤通学の利便性を向上したり、観光地へのアクセスを充実したりすることで、八戸線の利用者数増加につなげたい。                        |

### ◆発表内容

#### 発表 1

▶1 年末の税金をあわせるため  
▶2 土地問題が発生するから  
▶3 自転車の数が少ないから



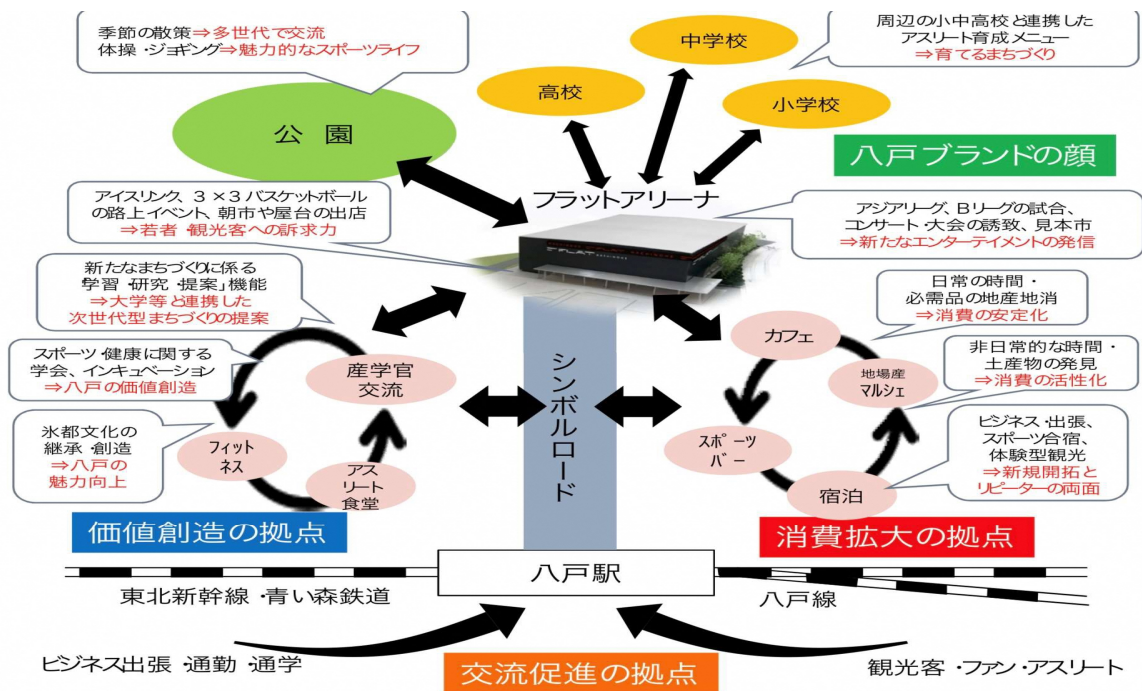
いかずきんズ  
八戸市マスコットキャラクター

[https://www.city.hachinohe.aomori.jp/soshikikarasagasu/kohotokeika/cp\\_g/1/index.html](https://www.city.hachinohe.aomori.jp/soshikikarasagasu/kohotokeika/cp_g/1/index.html)



発表 2

5 / 16



発表 3

## 八戸線の紹介

八戸駅（青森県八戸市）

↑↓ 64.9km

久慈駅（岩手県久慈市）

ローカル線



八戸線の主力列車 E-130系

※使用フォントはMS明朝12ポイントとし、項目立てや図、グラフの挿入等は自由とする。  
A4判用紙2枚までとする。

## 「あおもり創造学」による魅力発信・地域課題解決プログラム 成果発表会発表要旨報告書

|     |               |
|-----|---------------|
| 学校名 | 青森県立名久井農業高等学校 |
|-----|---------------|

### ◆発表テーマ

※本テーマは各校の「あおもり創造学」のテーマとし、**発表内容に応じて必ずサブテーマを付けてください。**

妙丹柿を救おう～文化継承プロジェクト～

### ◆発表要旨（100～200字程度） ※具体的に文章で発表内容をまとめてください。

妙丹柿（みょうたんがき）は、南部町で昔から盛んに栽培されてきた品種である。渋柿であるが、糖の含有量が多く肉質が粘質、繊維や種子が少なく長宝珠形という独特な果形から、主に干し柿として利用されている。しかし、食生活が変化し、妙丹柿自体の絶滅が危惧されるほど干し柿の需要が少なくなった。そこで、妙丹柿の栽培復興や積極的な活用による地域活性化を目標に、妙丹柿の新たな渋抜き方法や加工および活用方法を検討する研究を行った。

### ◆発表内容

#### 1. 目標

- （1）妙丹柿の新たな渋抜き方法を探る。
- （2）妙丹柿の加工方法の検討。
- （3）妙丹柿の活用方法の検討。

#### 2. 実施概要

- （1）実施期間 令和5年4月から令和6年11月
- （2）実施場所 調理室、生物工学室
- （3）品 種 名 妙丹柿

#### 3. 実施概要

- （1）実施期間 令和5年4月から令和7年1月
- （2）実施場所 調理室、生物工学室
- （3）品 種 名 妙丹柿

#### 4. 実施内容

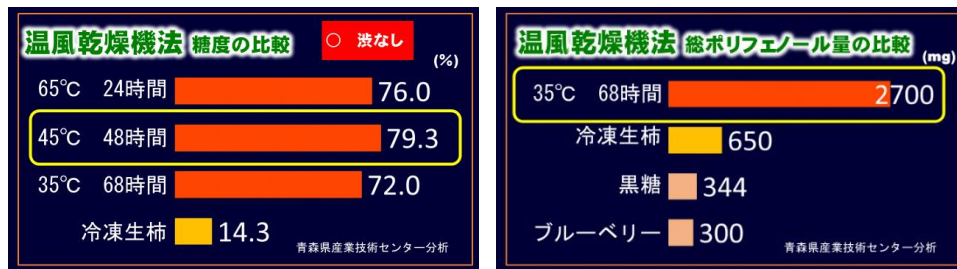
「妙丹柿」について、現状と課題を把握し、渋抜き方法の検討、加工および活用方法の検討、認知度・消費量の向上、地域活性化につながるPR活動を2年間通して行った。

#### 5. 結果

##### （1）妙丹柿の新たな渋抜き方法

まず、従来の干し柿作りに挑戦し、約2か月で完成した。また、長期冷凍保存やフリーズドライ製法で渋抜きの実験をしたところ、全く渋が抜けなかった。温風乾燥機を使用して乾燥温度と時間を変えて試験を行ったところ、全ての試験区で渋が抜け、糖度も高くなった。さらに、総ポリフェノール量を比較したところ、乾燥柿が生柿の4倍以上の2,700mg となっ

た。



## (2) 妙丹柿の加工方法の検討

妙丹柿の加工方法として干し柿のパウダー化に挑戦し、石臼では粉末にならず、製粉機では薄いオレンジ色のととても細かい粉末になった。

校内アンケート結果から、干し柿をスイーツにすれば食べる人が増えるのではないかと考え、お菓子作りに挑戦した。また、干し柿の料理方法の一つとして、郷土料理研究家の山本先生にご助言をいただきながら冬の郷土料理である「菊花巻き」を参考に「三種のキムチの干し柿巻き」を考案し、「漬物グランプリ 2024」に応募し、応募総数 70 作品の中から金賞を受賞することができた。



## (3) 妙丹柿の活用方法の検討

南部町鳥舌内地区で妙丹柿の干し柿を栽培している農家の大向さんから課題を聞く機会が得られ、妙丹柿の現状を知ることができた。「高校生ボランティア・アワード 2024」に応募し、東京で行われた全国大会に出場した。私たちのブースでの発表について、たくさんの方に聴いていただいた。全国の高校生と交流活動を行うことができ、応援メッセージもいただいた。また、テレビや新聞などのメディアの取材を受けることで、たくさんの方に妙丹柿について知ってもらう機会を得ることができた。さらに、妙丹柿をとおして、子どもたちに食やいのち、農業の大切さをわかりやすく、伝えるために紙芝居を作成し、令和7年1月12日こどもはっちで行われた「こどもはっちの小正月」において披露した。

## 7. まとめ

- (1) 妙丹柿の新たな渋抜き方法として、温風乾燥機を使用し、45℃で48時間乾燥させた乾燥柿が最も糖度が高くなった。
- (2) 乾燥柿を粉末にするには、石臼より製粉機の方が、作業効率が良く、より細かい粉末になった。干し柿の甘さや風味を生かしたお菓子、料理を作ることができ、それ以外でも活用できる方法も検討できた。
- (3) 農家さんから直接課題を聞き、「高校生ボランティア・アワード 2024」をはじめ各種メディアやイベントで発表機会を得られ、こどもはっちでは食育活動をし、多くの方に妙丹柿を知ってもらうことができた。

## 8. 今後の課題

在来品種は消費されないと次第に農村から消えていく運命にあるので、妙丹柿に光を当て新しい活用方法を考えることで、消えゆく農村資源と文化の保護と継承につながると期待して活動を続けたい。